

2011年1月5日

## イビデン株式会社 竹中社長 年頭所感

2011年1月5日午前8時より、各事業場に全役員が出向き、社員を前に竹中社長が年頭の挨拶を行いました。また、テレビ会議システムを利用し、海外拠点(フィリピン、北京、マレーシア、フランス、ハンガリー)との新年互礼会も執り行いました。要旨は以下の通りです。

\*\*\*\*\*

新年あけましておめでとうございます。

昨年の世界経済は、各国の経済支援策や新興国の成長に牽引され、緩やかな回復を続けました。しかし、夏以降は頼みの経済支援策も終了し、加えて欧州の金融不安も重なり、景気回復の足取りが鈍りました。急激な円高も輸出に依存する日本の経済には大きな痛手となりました。

こうした厳しい経済環境の中で、当社は2010年を「新たな成長の年」と位置づけ、全事業部門で「ビジネス構造の改革」に取り組みました。

その結果、パソコン用ICパッケージでは、お客様との戦略的パートナーシップが強化され、市場シェアは更に強固なものとなりました。年間を通じて安定した受注と新製品立上げ当初から高い歩留まりを実現できたことが業績に大きく寄与しました。

プリント配線板および携帯機器用小型ICパッケージは、リーマンショック以来、長らく低迷しました。昨年は世界中で急成長しているスマートフォン市場にリソースを集中し、大規模な投資も行うことで売上高も利益も改善されました。世界トップシェアも視野に入っています。今年は業績に大きく貢献してくれるものと期待しています。

総括しますと、当社独自の改善活動であるIPM活動と合宿により、事業全体のマネジメント力が格段に向上し、「新たな成長」への足がかりが出来たと思います。2010年は当社にとって実りの多い年となりました。

2011年は、不安要素はありますが、アメリカも欧州も景気の底から脱し、新興国が市場を牽引する形で世界経済の回復基調はより鮮明になると予想されます。市場では、新興国向けのローエンド製品が引き続き高い成長を維持し、先進国や富裕層向けのハイエンド製品も活況を呈するものと思われます。一方でグローバルな企業間競争は熾烈を極め、世界のトップ企業が収益を独占する傾向が益々強まると考えられます。

このような経済環境の中で、当社は技術の優位性を発揮できるハイエンド市場に特化し、IPM活動をさらに進化させることで、各市場におけるトップシェアを確実なものにしたいと思います。そして、高い成長と安定した利益を確保したいと考えています。

以上

